

印鑑・デザイン物語

第1回

日頃、わたしたちが使っている印鑑の歴史や、日本人が時代時代で印鑑(はんこ)と、どういった付き合いをしてきたのかを全5回シリーズでお届け致します。第1回目は印鑑発祥の歴史についてです。

ハンコの歴史は、紀元前3500年の古代メソポタミア時代に始まったとされています。世界で最も古くハンコが用いられたのは西アジアと言われ、指輪形の印章がエジプトで現れました。その当時はハンコと言っても文字の前段階である模様や絵が彫られていただけだったようです。

その後、文字が発明されて書くことが主体となっていく中で西洋ではハンコと同じ役割を持つ手書きのサインにとって代わられていき、ハンコは西洋で姿を消す前にシルクロードを通して東洋に渡り生き延びました。



日本最古のハンコは言うまでもなく福岡県志賀島で発見された「金印」で、これは中国の皇帝から授けられたものであるとされています。この事から日本のハンコの歴史が始まったとされています。



一辺は2.3センチの小さなはんこですが、重さは108.7グラムとずっしり重く、ほぼ22金にあたと推測されています。

日本において紙に朱や黒をもって押捺するハンコの本格的な使用は、奈良時代に律令の制度が整い、実際に施行されるようになってからであると考えられています。正倉院の所蔵する文書などから奈良時代には絵を職業とする人、河川運送業をしていた人など様々な人々が「印」を使っていたことが想定されています。

更に当時の不動産売買契約にも捺印の事実が確認されています。



元銀行員・岩崎氏に直接相談できる
「銀行活用術 & 補助金相談会」

不景気が定着してしまった昨今こそ、銀行と上手につき合う方法が分かれば、銀行からの最先端の様々な情報を入手することが可能かもしれません。銀行の信頼を勝ち取って、同業他社に一歩進んだアドバンテージをゲットしましょう。

また、補助金は融資とは異なり返済不要なので、ご自身のビジネスにうまく活用すれば大きくステップアップ出来ます。

【コンテンツ】

- ・経営者のための銀行活用術
- ・金融機関からうまく、有利な条件で融資を引き出す10のポイント
- ・月次決算のお勧めと決算書の有効活用
- ・具体的交渉術 & 経営者のプレゼン
- ・実績 & ステップアップ
- ・補助金の具体的な申込方法
- ・お役所ウケする事業計画書の書き方

日程: 6月26日(金) 10:00~12:00

(完全予約制)

参加費: 3,000円 特典: 銀行徹底活用マニュアル付
会場: インプレス福岡(株)デザインはんこ

※詳細・ご予約は下記の電話番号又はメールアドレスからお問合せ下さい。

「起業家を成功させたい」

笑顔・コミュニケーション・感動

インプレス福岡株式会社 デザインはんこ

福岡市中央区赤坂1丁目11-13 大稲ビル4階 〒810-0042

☒ info@design-hanko.com

月~金/9:00~18:00 土/10:00~18:00 定休日/日曜・祝日

TEL:092-752-0888 FAX:092-752-0822

起業・独立をお考えの方はご相談ください。

起業をデザインする 2015.6月号

IMPRESS

毎月発行情報レター



起業デザイン物語

第12回 代表取締役社長
株式会社 LUXSIA 坂本良二様

■営業とはお客様に喜んで頂くこと

この度、起業された株式会社LUXSIAの坂本良二様。今までに、レストランやイベントのチケットの販売、洗剤の製造機器販売や浄水器などの営業を経験されています。その経験を通して「営業とは自分の利益だけではなくお客様に喜んでもらう事だ」と実感し、営業の仕事にとってもやりがいを感じたそうです。



その当時、エコ商材を扱った強引かつ詐欺まがいな営業手法が社会問題にもなっていました。「売り込むのではなく、お客さまが心から安心できる営業マンになりたい」と。社員やその家族が安心して暮らせる環境を作りたい、その想いを形にしたいと坂本様は株式会社LUXSIAを立ち上げられました。

■地域密着を大事にします。

坂本様自身が生まれも育ちも福岡であること。顔見知りも親も友達も、たくさん大切な人たちが今もこの街に暮らしています。そんなふるさと大切な人達の前で恥ずかしい仕事はできないという思いが、常に仕事へ全力を注ぐ原動力になっているそうです。



「企業としては小さくてもいい。ただ、地域のみなさんに必要とされたい。『この街で電化リフォームといえばLUXSIA』、そんな存在になりたいのです。」と熱く語っていらっしゃいました。



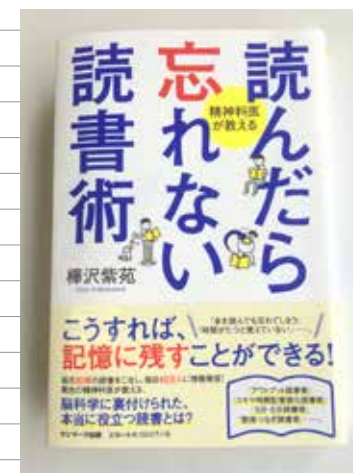
株式会社 LUXSIA

小規模リフォーム、太陽光パネル設置、販売
<http://www.luxsia.jp>

7

Recommend

精神科医が教える
読んだら忘れない読書術
樺沢紫苑著 サンマーク出版



10年たっても忘れない～「記憶に残る読書術」

「本を読んだ」とは、「その本の内容を説明できること」、そして「内容について議論できること」例えば、月間平均して5冊の本を読破する人でも、「アウトプットできない」では、「読んだつもり」になっているだけで、その読書自体が役に立っていない。

本を読むことが目的ではなく、本を読んだ自分が「どう感じるか」、そして「どう変わるか」が重要で、本によって自分に変化、成長がもたらされてこそ、本の価値は最大化する。

(本文より抜粋)

この20年でおおよそ6,000冊もの書を読んだという精神科医の著者が、「記憶に残る読書術」として3つの基本と2つのキーワード、そして実践的な数々の方法論を丁寧に解説した大変役に立つ書籍で、それら一つ一つにワクワクしながら一気に読破しまう一冊です。